

# 二年学年だより

No. 2

5月号

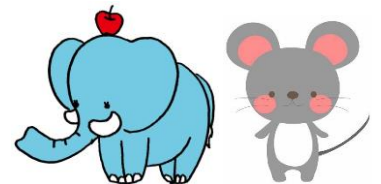
令和3年5月6日発行

201HR

GWも終わり、新しいクラスにもそろそろ慣れてきたでしょうか。今日は少し、「時間」について書かれた「ゾウの時間・ネズミの時間」という本を紹介しようと思います。この本によると、ネズミの心臓が1回拍動するのにかかる時間は0.1秒、ゾウの拍動にかかる時間は3秒だそうです。哺乳類においては、体重が重くなるにつれて拍動時間が長くなるということが知られています。そのため、サイズの大きい動物ほど、拍動に合わせて呼吸や筋肉の動きもゆっくりになり、ネズミはチョコチョコ、ゾウはのっしのっしという動きになるのだそうです。だから、例えばリンゴが木から落ちるのを見て、ネズミは「あ、落ちる落ちる落ちる・・・」と走馬灯のようにいろんなことを考えているのに対して、ゾウは「あれ？」なんて考えている間にリンゴが落下してしまっているのかもしれないですね。また、おもしろいことに、哺乳類の心臓の拍動は種によらず20億回打つと止まると言われています。そのため、拍動の速いネズミの寿命は数年、拍動の遅いゾウは長ければ100年という差になって表れます。そう考えると、物理的にはネズミの方が短命ですが、ネズミの生きた時間の密度は、ゾウの密度よりはるかに大きく、結局のところ一生を生き切った感覚は、ネズミもゾウも存外変わらないのではないかとこの本には述べられています。

この一節を読んで、「おもしろいな」と思った人もいるかもしれません。その人はぜひ、その気持ちを大切にしてほしいなと思います。新しいことを知ることのおもしろさ、新しいものの見方をする事のおもしろさ。勉強するということは、そういった知見を広げ、物事を様々な角度から見て、自分の可能性を広げることだと思います。もちろん、目の前には受験という壁があり、そんな余裕はないかもしれませんが、どうせやるなら

「勉強はつらいもの」と決めつけるのではなく、おもしろさに目を向けてみませんか？受験という壁の向こうを見据えて、今しっかりと学習に取り組んでいきましょう。



(201HR担任)

世間はコロナ禍で今まで当たり前と思われていた事柄がことごとく中止になったり、見直されたりしている。中にはなぜ今までこんなことしていたのだろうかと改めて見直して不思議に思うこともある。

毎年夜桜の撮影に小田町の立石地区に行く。ここには高齢の老夫婦が畑仕事の合間の慰みにと50年前に植えた枝垂桜「相野の桜」が見事な姿で聳え立っている。小田の山間深く狭い九十九折の道を上っていくと突然目に飛び込んでくる。見ごろを迎えたころにはライトアップされ池の水面に映る桜の姿は幻想的だ。

自然は毎年忘れることなく私たちに美しい姿を見せてくれる。ファインダーをのぞき、夢中でシャッターを押すとき、姿の見えないウイルスに右往左往している人間のちっぽけな姿と、毅然とした様子で私たちの前に姿を見せるその自然の力強さを感じ、もしかしたら私たちはどこかで歩むべき道を間違えたのではないかとふとそんな不安にとらわれる。

(201HR副担任)